

住宅建築と太陽光発電を中核に幅広く事業を展開。 新たに系統用蓄電池事業を開始し、成長を加速させていく

太陽光発電、戸建て住宅の建築・販売、リフォーム等、幅広く事業を手がける上里建設。全国に267カ所の自社太陽光発電所を持ち、総計で100メガワット超を発電する。同社は新たに系統用蓄電池事業をスタートし、上里町に系統用蓄電所を開設。さらに海外での系統用蓄電池ステーション建設のプロジェクトにも取り組み、さらなる成長に向け挑戦を続けている。



代表取締役 戸矢 大輔氏

- 代表者 代表取締役 戸矢 大輔
- 創 業 昭和40年4月
- 設 立 昭和45年7月
- 資本金 9,500万円
- 従業員数 65名
- 事業内容 建築・土木工事の設計・施工および管理業務、不動産売買および斡旋業務、宅地造成および建売住宅・注文住宅の販売業務、太陽光発電システムの販売・施工および管理業務、損害保険代理業務、生命保険の募集に関する業務
- 所在地 〒367-0044 埼玉県本庄市見福3-14-14
TEL 0495-25-5454 FAX 0495-25-5455

●URL <https://kamiken.info/>



住宅建築と太陽光発電を中心に、リフォーム、賃貸、中古住宅販売、鉄骨・鉄筋コンクリート造の倉庫・集合住宅等の建築と、セグメント間でシナジーを発揮しながら事業を展開する株式会社上里建設。

中核となる太陽光発電事業は、埼玉県、群馬県を中心に北海道から九州まで計267カ所の自社発電所を所有しており、総発電量は103.84メガワットを誇る。そして自社で発電した電力を大手新電力会社や電力小売業者などに販売している。もう一つの中核となる住宅建築は、太陽光発電設備や蓄電池を標準装備した省エネルギー住宅を中心に、ニーズに沿ったデザイン性の高い住宅で高い評価を得ている。

「石炭や石油で動く社会は、もうすぐ終わりを迎えるでしょう。今は、温暖化の原因となる温室効果ガス・CO₂を出さない社会を目指さなければいけないと思っています」(戸矢大輔社長)

人間社会が排出する温室効果ガスの75%が二酸化炭素(CO₂)で、その多くが石油や石炭など化石燃料の燃焼によるものといわれている。そしてこの温室効果ガスが、気候変動の最大の要因となっている。

同社は、気候変動という大きな課題の解決と持続可

能な社会の実現に向け、太陽光発電事業を通じた社会貢献に取り組んでいる。掲げるミッションは、“再生可能エネルギーで日本を動かす”だ。

→ 戸建て太陽光パネルの施工から発電所建設へ

同社は昭和40(1965)年に左官業として創業。その後、建設業に業容を広げる。平成2(1990)年には「ホテル本庄」を建設してホテル事業部を開設し、ホテル経営にも進出した(平成12年に分社化)。

現社長である戸矢大輔氏は、銀行勤務を経て家業である同社に入社する。入社後は営業として飛び込みやチラシ配布などで営業活動を進めていった。

「最初は建設業界の営業の仕方がつかめず、受注を取るのが難しかったのですが、友人から1軒建築を依頼されて要領がつかめ、この業界の営業の仕方が分かるようになった。その後、自分なりのやり方で営業をかけて、受注数を増やしていきました」

そして平成18年、35歳の時、社長に就任する。

当時は、オール電化住宅が人気を集め、住宅に太陽光パネルを設置する案件も増えていた。同社はその

ニーズに応えるため、戸建て住宅への太陽光パネルの設置工事を始める。これが現在の太陽光発電事業をスタートさせる契機となった。

「住宅に太陽光パネルを設置することはお客さまのニーズに合うと思い、パネルメーカーや設置方法などを調べて工事を提案、施工しました。早くから国内外のパネルメーカーの情報を集めて直取引を始めたことで、お客さまに太陽光パネルを安く提供できています。それは当社の強みだと思います」

その後、顧客企業から太陽光発電所建設の依頼があり、同社で請負工事を行う。やがて自社で土地を購入して太陽光発電所を建設した後、顧客企業に販売する事業へと発展し、そして現在主軸となっている自社で発電所を建設して自社で売電するという、自社運営の太陽光発電事業へと展開していった。

太陽光発電事業は、事業開始以降、自然エネルギーの需要が高まる世情の追い風を受け、着実に売り上げを伸ばしている。

➔ 上里建設の太陽光発電事業の特徴

同社の太陽光発電事業の特徴は二つある。まず一つ目が「太陽光設備リプレイス」。これは、性能や耐久性が大幅に低下して発電量が減少したパネルやパワーコンディショナーを積極的に最新の製品に変えることで発電量を維持・向上させ、保有する発電所の資産価値を高める取り組みだ。

そしてもう一つが「保守点検・維持管理」である。スタッフが現地で目視点検や発電施設の点検、監視システムのチェックを行うほか、定期的にドローンによる赤外線点検等を実施して設備の不具合やトラブルの有無を確認。サーモカメラによる熱量点検なども行う。こうした細やかな施策によって発電所の発電量の維持に取り組んでいる。

そして、発電した電気をFIT（固定価格買取制度）やFIP（売電価格に補助額が上乗せされる制度）、コーポレートPPA（企業や自治体等が小売電気事業者から自

然由来の電力を長期購入する契約）など、多岐にわたる制度を利用して販売し、売り上げを順調に伸ばしている。

現在は年間103.84メガワットの電力を発電しており、これは、年間3,280万1,496リットルの石油使用量、年間29万6,784トンのCO₂排出を削減する電力量に当たる。こうして温室効果ガス抑制に寄与しながらも、戸矢社長はこう語る。



「今年の夏は暑かったですよね。でも、これは温室効果ガスを発生させている私たちの責任でもあります。これからは一人ひとりがエネルギーについて考え、自分が使うエネルギーは自分で作るという意識を持つことが大切なのではないのでしょうか」

同社は太陽光発電所の建設技術、発電量維持の「太陽光設備リプレイス」「保守点検・維持管理」のノウハウを武器に、顧客向けに発電所の建設や発電設備の保守・管理サービスも行っている。

➔ 高いデザイン性が人気の住宅事業

上里建設のもう一つの中核事業が住宅建築である。同社の「ミラストの家」は、最高水準の断熱性・気密性・耐震性を目指した省エネルギー住宅。間取りの規格化をしていないため、家族構成やライフプランに合わせて間取りが決められるのが魅力だ。令和2（2020）年、同社はこの施工住宅において、省エネルギーやCO₂削減等に貢献する優れた住宅を表彰する「ハウス・オブ・ザ・イヤー・イン・エナジー2020」で特別優秀

つ空間づくりで人気を集めている。

「私はデザインにはこだわっていて、デザインを重視した家づくりを心がけています」

“すべての人々にデザインのある家を提供する”という使命に基づき、30代の子どもがいるファミリー層をコアターゲットに、価格競争力がありながらも高品質かつデザイン性に優れた住宅を提供する同社。手がけた住宅の顧客満足度は高く、評判を集めている。

➔ 系統用蓄電池事業をスタート

同社は新たに、電力の安定供給や調整力の提供を目的とする系統用蓄電池事業をスタートした。これにより、昼間発電した電力の余剰分を蓄電池に貯め、電力単価が高くなる夕方から夜間に売電することで高い売上げが期待できる。

すでに上里町に系統用蓄電所を開設した。今後、順次蓄電所の建設を進めていく。

さらに、海外で自社の系統用蓄電池ステーションを建設するプランも進行している。

「資源のある世界各国でも再エネで国を動かそうとしています。海外では、蓄電池があるのが当たり前の状況なのです。いくら発電量を増やしても、貯められなければ捨てるだけです。最近、蓄電池の価格も下がっているので、いずれ日本国内でも普及すると思います」

住宅事業に関しては、現在東京エリアへの建築・中古販売等での進出に力を入れ、マンション物件をリフォームして販売するなど着実に実績を積んでいる。来年12月には東京都中央区の八重洲通りに自社ビルを竣工予定。今後は、東京市場の開拓に向けてギアを上げ、積極的に攻めていく計画だ。

「中小企業は、ベンチャーでなければ意味がないと思います。新しいことに常にチャレンジです」そう語る戸矢社長。今後は、系統用蓄電池事業という新たなビジネスで、よりいっそう事業をスケールアップさせていく。



賞を受賞した。

同社の人気住宅「エコプラ」は、デザインや暮らしやすい間取りにこだわりながらも建設コストを抑え、低価格を実現した規格住宅。坪数や間取り、玄関の向き、価格に応じた多数のプランが用意されている。「ミラストの家」「エコプラ」は、共に太陽光発電と蓄電池が標準装備されているのが特徴だ。

そして「ラフェルム」は、“フランスの田舎に暮らす”をイメージしたアンティークなデザインが特徴的な住宅。ヴィンテージ加工が施された古木のような素材感を持つ木材を使ったり、表面にでこぼこがある温もりあふれる塗り壁など、古民家のような落ち着いた雰囲気を持